

第12回aacaサロン インテリアデザインにおけるアートワークの領域について

会員増強委員会

第12回目となる今回のサロンの内容は、aacaの神髄とも言える、建築とアートの融合について。それぞれの立場で会社代表を務めるお二人をお迎えし、「インテリアデザインにおけるアートワークの領域」をテーマに、じっくりとお話を伺いました。

一人目は2022年に個人会員になられた「ergo」代表の市村陽子さんです。美術大学の油絵学科卒のアーティストで、インテリアに対するアートワーク全般の企画も行っています。

二人目は市村陽子さんのパートナーでもある市村隆剛さんで、インテリアデザイン会社「モノグラフ」の代表を務めています。「アートとの融合が空間にどのような価値を生み出すのか?」ということに深く向き合っています。

今回のサロンでは、両者による協創が生み出す空間やアートの紹介を中心に、そのプロセスやコンセプトメイクのスタンス、コラボレーションの仕方等を深掘りし、来場者からの質問にも都度答えて頂きながらお話を伺いました。

市村陽子さんはまず、アーティストとしての取り組みについて説明。作品の制作過程の紹介では、マーブリングやステンシル、エポキシ樹脂等を使った技法を詳しく解説して頂きました。

空間に相応しいアートをどのようなキーワードで具現化していくのか、オーナーズリクエストによって都度チーム組成を工夫するスタイルや、徹底的に拘った素材感への想い等、非常に興味深いお話を伺うことができました。

各アート作品が設置されている空間は市村隆剛さんのインテリアデザインによるものが多く、都度、空間デザインの志向も織り交ぜながらお話が伺え、如何にアートが空間を惹き立て、空間がアートに寄り添っているかが実感できました。

インテリアデザイナーの市村隆剛さんは、数多くの実作の中から最新作のホテルプロジェクトを紹介。建築やFFE (Furniture[家具]、Fixture[什器]、Equipment[備品]の略称)のデザインは勿論のこと、細々とした装飾や調度品からアートまで、空間全体をトータルでデザインし尽くす意欲とその実行力に触れることができました。

お二人は各々の立場での得意分野を最大限に主張しながらも、チーム力を武器に、一つのスタイルに留まることなく多様なアウトプットを提供している点が大きな特徴のように感じました。また、ブレることのない強固なデザインコンセプトを構築し、一本筋の通った納得性の高い全体空間を生み出している点が、数多くの発注者からの高い評価と信頼に繋がっているように思いました。

最後に「ergo」で協働されている登録アーティストの紹介もありました。この「登録アーティスト」の取り組みが発想の領域を厚くしていることは言うまでもありませんが、アーティストのジョブチャンスを生み出すことにも繋がっているという側面も垣間見られた点は新鮮でした。

また、登録アーティストは非常に興味深い活動をされている方が多く、今後何らかのプロジェクトで協働できる機会が持てたら良いなあと密かに思った次第です。

今回のサロンでは軽いスナックと飲み物を頂きながら和気あいあいとしたムードのもと進行することができました。会場内からも活発な質問が飛び交い、あっという間に予定の1時間半が経過してしまいました。

今回のご登壇を快く引き受けて頂いたお二人に深く感謝致します。

(大林組 大西宏治)

開催日:2024年4月12日

話し手: Ergo代表 アーティスト 市村陽子さん

モノグラフ 代表取締役 市村隆剛さん

モデレーター: 大林組 大西宏治

会場: aaca事務局 (東京・三田)



環境に優しい「ecopoxy」を使ったエポキシ樹脂製のアート作品製作の様子



インテリア・調度品・アート等空間全体としてトータルデザインされた作品の例



浜名湖の気候に近い地中海エリアのテイストを取り入れたデザイン



マテリアルへの拘り(ギリシャで購入したアンティークの壺を火鉢として利用した例)



飲み物を片手にまさに「サロン」の雰囲気で開催された会場の様子